



自民党

第33代・第34代環境大臣



あさお 慶一郎

何度でも
チャンスのある社会を

今月の提言

環境大臣退任報告

令和7年10月21日、環境大臣職を退任致しましたことを皆さまにご報告いたします。在任期間は386日間でした。

国内出張21回、海外出張6回

退任の翌日に、石原宏高環境大臣に引継ぎを行い、環境省職員の前で前大臣として挨拶をし、花束を頂きました。また、環境省記者クラブの皆さまからは、世界に一枚しかない大変素敵なTシャツを頂きました。環境大臣、原子力防災担当大臣として、環境政策、原子力防災政策に「終わりや完璧はない」との信念の下、政策のPDCAサイクルを回し、少しでも良くしていくことを念頭に活動して参りました。国内出張に21回、海外出張に6回出向き、現場を見ると同時に多くの国際会議にも参加してきました。

安全・安心政策を前進させる

環境省設置の原点である水俣病、PFAS等の化学物質、クマ問題等住民の皆さまの安全・安心に係る課題に取り組み、前進を図って参りました。クマ問題では、自治体が猟銃資格を持つ職員を雇用出来る様にする交付金制度拡充のため、財政当局と交渉すべく事務方に指示を致しました。福島県の除去土壌については、その4分の3程度を復興再生土として利用する端緒を首相官邸や霞ヶ関の官庁街で始めること



が出来ました。昨年の能登半島地震の被災家屋の公費解体は10月末までに相当程度の達成をみる事が出来ました。

私の「生涯の事業」である
人工光合成のロードマップ化

夢のある政策にも取り組みました。私が「生涯の事業」と位置付ける人工光合成については、多くの有識者に参加を頂き、早期社会実装のロードマップを9月2日にまとめるという段階までごこつけました。内容は、2030年に高付加価値品、2040年にはエタノール等の量産化を目指す画期的なものです。

「終わりや完璧のない」環境政策のため
大臣経験者として提言

環境政策は地球規模課題から地域の課題まで、様々ありますが、常に環境が良くなる様に日夜努力する必要があると。メガソーラーが希少生物の生存を脅かしたり、環境に害がある場合には抑制をしなければなりません。その為の枠組みとして関係省庁連絡会議も立ち上げることが出来ました。今後は環境大臣経験者の一人として、環境政策、原子力防災政策をより良くしていくことへの提言に努めて参ります。

第33代・第34代環境大臣

浅尾 慶一郎

誰にでも何度でもチャンスのある社会を。

あさお慶一郎のプロフィール

昭和39年2月11日生まれ
栄光学園高校、東京大学法学部卒業
日本興業銀行出身、証券アナリスト
米スタンフォード大学
経営大学院 (MBA) 修了

平成10年 参議院議員選挙初当選
平成16年 参議院議員選挙当選 (2期目)
平成21年 衆議院議員選挙初当選
平成24年 衆議院議員選挙当選 (2期目)
平成26年 衆議院議員選挙当選 (3期目)
令和4年 参議院議員選挙当選 (3期目)

浅尾慶一郎
事務所

鎌倉事務所

〒247-0056 鎌倉市大船1-23-11 松岡ビル5階
TEL.0467-47-5682 FAX.0467-47-5626
info@asao.net

Website
asao.netFacebook
facebook.com/
keiichiroASA0

X

twitter.com/
asao_keiichiro

YouTube

youtube.com/
user/
asaokeiichiro

